看護の質向上へ取り組み

やまなし医療最前線《32》

県立中央病院から

資格取得や子育て後押し

名取　清香
看護部部長

山梨県の基幹病院である県立中央病院は、救命救急センターや総合周産期母子医療センターを備え、がん診療連携拠点病院としての役割を担うため、高度な医療技術と高い専門性が求められている。「看護も同じように質の向上を図る必要がある」と看護部の名取清香部長。看護部では認定看護師の活用やチーム医療に取り組むことで、看護の質向上に努めているほか、働きやすい職場づくりを実践している。

名取部長によると、同病院は、分野ごとに熟練した看護技術と知識をもつ認定看護師の育成を推進。現在、皮膚・排せつケア、がん化学療法、緩和ケアなど11分野で15人が活動。さらに高い専門性が求められる専門看護師も本年度、慢性疾患看護の分野で誕生した。

このほか、ドクターヘリに搭乗するフライトナースや、リンパ浮腫に対応するマッサージを行うリンパドレナージ・セラピストなどの資格取得を後押し。新人の実践訓練とキャリアアップのための教育体制を整備している。

7月に県立中央病院北側に新設された託児所

同病院は多角的な治療を行うため、呼吸サポートチーム（RST）、栄養サポートチーム（NST）、感染制御チーム（ICT）など、他職種が緊密に連携する医療チームを発足しているが、そこに医師や臨床工学技士、理学療法士らとともに看護師も参加。医師とのコミュニケーションが図りやすくなるとともに、専門性の高い看護技術をもつ看護師がサポートすることで、患者の状態に合った最適なケアを実践できるという。

一方、看護師不足が叫ばれる中、570人のナースが働く同病院では働き続けられる環境を整備している。結婚や出産による離職率が高いことから子育て支援サービスを充実させ、委託する保育園に子どもを送迎するサテライト方式だった院内保育所を、7月に同病院北側に新設した。

名取部長は「看護師は患者さんの一番近くに寄り添う存在。質の高い看護を提供するとともに、看護師が働き続けられる職場づくりを進めていきたい」と話している。

＝第2、4木曜日に掲載します

掲載日：2012年11月22日／ぶんくら／紙面頁011
紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社